



発行年月日 2022年5月13日

発行者 日本作業科学研究会広報

ウェブサイト <http://www.jssso.jp/>

本ニュースは、会員向けメール配信のニュースをまとめ、記録としてHPに掲載するものです。会員に向けてはニュースがあったときは、本ニュースとは別に、最速でメーリングリストを通して個人々の登録したメールアドレスに配信しています。

ニュース担当理事：齋藤さわ子、西野歩

## 日本作業科学研究会第25回学術大会の開催のお知らせ

日時：2022年10月22日(土)、23日(日)

場所：長野保健医療大学(長野市)

テーマ：What is Well-Being? ～作業の視点で幸福を考える～

開催方式：集合+LIVE 配信

※集合が困難な場合は、「当日LIVE+事前オンデマンド配信」に切り替え

長野県での初めての開催となります。今回は、上記のテーマを掲げ、幸福学と作業科学の視点を交えて、あらためて作業と幸福(Well-being)の関係を掘り下げて、見えてくるものを参加者の皆さんと共有したいと考えています。また、調整中の企画もありますが、「現場で活かそう作業科学」と題して、作業科学の視点を作業療法の実践でいかすための事例検討企画も準備しています。事前参加登録は2022年5月頃、演題募集中です。

今から、日程を調整していただき、楽しみにしていただけたいと思います。スタッフ一同、慣れない学会運営ですが、準備万端、みなさんの参加を心よりお待ちしております。(大会長 春原るみ)

### OS caféに参加してみませんか？

“OS Café”は、講義形式の研修会とは異なり、テーマに合わせて、話題提供者が話題を提供し、自由に参加者が話をする場として、新型コロナ過に誕生しました。OSの知識が豊富な人も、考えを深めたり、楽しめたりする意見交換の場でもあります。教える⇔教えられるだけのという関係ではなく、一緒に模索したり、探索したり、吟味したり、そんな見方もあるよね～なん

て話をする場です。参加者の感想を読んでみてください。

### 【OSカフェへの参加、発表を通しての感想】

甲斐公規(国東市民病院)

OSカフェに参加することで、今まででは考えられなかった頻度で作業科学を学べるようになりました。また、作業科学がとても身近にある学問だと感じ、私達が作業療法を実践する上で、それを支える哲学として存在していることにも気づけました。更には、全国各地で作業科学を学び実践している方々と繋ることができ、「今回もお願いします！」と笑顔で言えるようになったことは、とても嬉しく感じています。社会的課題を作業の知識を用いて解決出来ないかと考え、自身の実践(男性の育児参加)をOSカフェにて発表させて頂きました。多くの建設的なフィードバックを頂き、今後の学びにも繋げることが出来ました。

### 「作業科学基礎入門」研修会が始まりました！

作業科学の学問的意義や基礎的用語や概念を学ぶような入門研修会は、以前は、作業科学セミナーでワークショップ形式で行われることが多かったのですが、2021年から定期研修会の開催となりました。皆様の周囲の方で、作業科学が気になり始めた方にお勧めください。

### 「作業と健康の関係を人に説明できるようになる」研修会が始まりました！

何故、作業科学という学問があるのか？その答えの一つは、作業と健康の関係を系統的に明らかにし、説明可能なものとするためです。積み重なってきた作業科学の知見を基に、作業と健康の関係を自ら説明で

きるよくなること目的とした研修会をスタートさせています。研究知見を基に、参加者と一緒に、説明の練習をしてみませんか？

## 会議等の開催記録

### 2021年度 第1回三役会議題

〈日時〉2021年1月31日(月)20:00～

〈場所〉Zoom ミーティング

〈出席者〉:近藤、中塚、山根、坂上、西方、齋藤

資料:会員状況 2021年1月26日

#### 【報告事項】

1. 会員数と会計状況 (1月26日現在)
  - ・正会員 213名、学生会員 11名
  - ・予算は230名で立てているので、年度内では到達する見通し。
  - ・事業費は、約40万円の収入あり(研修会、学術大会等の余剰金)、学術大会分が黒字となる見通し
  - ・来年度退会予定であることの申し出が約5名
  - ・会費未納者約30名
2. 事業執行状況(各班活動状況・長野学会準備状況を含む)
  - ・機関誌:発刊済み
  - ・実践班:概ね計画通り実施
  - ・研究班:概ね計画通り実施、来年度に向けての検討始める
  - ・特設班:OS café 計画通り実施
  - ・第24回学術大会(広島、オンライン):予定通り実施。会員106名、非会員21名、学生51名が参加。電子冊子とし抄録の印刷費を削減、海外招聘者の旅費(交通費、宿泊費)分の費用が掛からなかったことで、約30万円の黒字となった。アンケート結果も好評であり、無事オンラインにて開催できた。
  - ・第25回学術大会(長野):詳細は別紙参照。対面で出来なければ、オンラインも併用し延期はしない方向で調整。テーマは「Well-being と作業(仮)」。近々、第一弾として広報予定。

#### 【審議・検討事項】

- (ア) 来年度理事会選挙について
- (イ) 来年度理事会選挙後の活動準備(今年度3役事業)について
  - ① 現行会則の改定案の方向性について
    - 4章8～13条を見直し:
      - ・日本作業療法士協会の会則に準じて
      - ・8条の事務局員を削除

- ・理事の中から、会長、副会長2～3名、事務局員1～2名選出
- ・理事の10名から最低12名へ
- ・9条5を9条から削除し、これを13条へ移動
- ・9条6を削除

#### ●その他

- ・会費未納者の扱いを会則で明記(次回の総会で改訂)

例)3年間未納者は退会とする。退会となった者が再入会したい場合は・・・など

- ・理事選挙のあり方:オンライン選挙を含む

#### ② 現行組織の振り返り(来年度の組織編成に向けて)

- 事務局体制
- 委員会・班

#### (ウ) 理事会・その他開催について

<スケジュール>

- ・2月中に第2回3役会
- ・3月末～4月初旬 第一回理事会・理事/監事継続の意向
- ・5月～理事会選挙管理人選出
- ・6月～選挙公示
- ・7月～総会準備
- ・8月～第2回理事会(総会前)

### 2021年度 第2回三役会議

〈日時〉2022年2月17日(木)20:00～

〈場所〉Zoom ミーティング

〈出席者〉近藤、中塚、山根、西方、齋藤

#### 【審議・検討事項】

- (ア) 来年度理事会選挙について  
継続:今井、ボンジェ、高木  
未定:港(西方さんから打診)  
非立候補の際の候補:高島さん、横井さん、大下さん  
立候補:西方、渡辺慎介  
非立候補:坂上
- (イ) 来年度理事会選挙後の活動準備(今年度3役事業)について
  - ① 現行会則の改定案の方向性について(会則改訂案参照)
    - ・未払い会員と支払い済み会員とがいるものとして、会則は正会員の記載の部分はそのままとする。退会届が提出されない限り会員とする。支払い催促する際も、単年度分の会費のみ。催促メールは会員一斉メールで送る。

- ・理事の人数を8名から15名とした。
- ・その他文言等を調整した。

- ② 現行組織の振り返り(来年度の組織編成に向けて)(研究会組織図案参照)
- ・各委員会に理事が在籍するようにする。
  - ・これまで会員を対象としていたニュースはHPなどへの掲載に移行する。
  - ・HPの「研究会の目的」を今後再検討する。具体例として記載されている過去の内容のものは削除する。

(ウ) 理事会・その他開催について  
＜スケジュール＞

- ・3月26日 第一回理事会  
理事/監事継続の意向  
次々回学術大会の候補検討
- ・5月～理事会選挙管理人選出
- ・6月～選挙公示
- ・7月30or31日、8月6or7日 理事会(総会準備)
- ・9月3or4or10or11日総会

- ⑤学術大会関連:開催方式の検討している。  
⇒早めに決定する方向を確認。

【審議・検討事項】

- 1.補正予算の必要性について(会長、事務局)  
⇒補正予算ではなく、これまで通りの方法で行い、予算額と異なるものは総会で説明する。
- 2.次年度学術大会開催地の選出について(会長)
  - ・3名の候補者へ打診
- 3.次回総会・理事選挙について(会長・副会長)
  - ・現在、立候補者が9～10名で、総数を満たしているが、良い候補者がいれば打診
  - ・総会、理事会の日程調整を行う  
(担当:中塚さん)
- 4.会則の改正について(会長・副会長)
  - ・理事の数は8～15名⇒事業が拡大したこと、役割交代の時にスムーズなるように多めにした。  
⇒このまま8～15名で総会議案とすることを確認。
  - ・文言(事務局長、副会長を2～3名は複数名とする)を、三役会で再度確認。  
⇒「監事」「学術大会」に会則に合わせて名称を直す。「JOS」の修正する

2021年度 第1回日本作業科学研究会 理事  
議事録

〈日時〉2022年3月26日(土)16:00～18:00

〈場所〉Zoom ミーティング

〈出席者〉近藤、中塚、山根、西方、齋藤、坂上、今井、ポンジェ、若井、高木

【報告事項】

1. 2021年度前半期会員情報・会計状況(事務局): 予定会員数達成

2. 2021年度前半期事業中間報告:概ね計画通り

3. 2021年度後半期事業案・事業予算案(各班)

- ①機関誌編集班:論文が集まったら、その都度発行。次回は6月に発行を予定しているため、R3の予算を上回る。今後も、年2回、支払いすることを考えている。

⇒今年度は1年半分払う。補正予算とはせずに、予算を超えた分は、総会で説明する。

- ②ホームページ:IT管理者の作業が増えているので、委託費を増やす必要があるのではないかと。学術大会では、研究会の広報とは別に支払うことが望ましい。学術大会のTwitterを研究会のTwitterに移行する。

③研究会ニュース:本理事会の後に発行。

④特設委員会:OSカフェは年間計画を立てた。ディスカッションの場として定着した。

3. 組織の見直しについて(会長・副会長)
  - ⇒組織図については、それぞれの班に持ち帰ってもらって意見をもらう。
  - ・教育部を1つ立ち上げる。
  - ・委員会はフレキシブルに理事が決まった後に決定していく。
  - ・OSカフェの常設組織化(特設委員会)
  - ・活動の統合や整理(広報ネットワーク委員会:研究会ニュース)
  - ・研究会活動の普及・後継者の育成(学術委員会:研究推進班)
6. 編集費用の支払いのタイミングについて(学術委員会:機関紙編集班)
7. 査読者への委任状について(学術委員会:機関紙編集班)
  - ⇒査読委員を常設する。委任状を機関誌編集委員長の名前で出すことを確認。
8. 来年度事業・予算の検討について(会長・事務局)
  - ・IT管理者の雇用または雇用費の増額(広報・ネットワーク委員会:ホームページ)
  - ⇒次回の理事会で検討する。
9. JSSO HPの目的の見直しについて(会長)
  - ⇒次回の理事会で検討する。